



クリヤマホールディングス株式会社



2020年12月期

決算説明会

(東証二部:3355)



KURIYAMA

- 1.2020年通期連結業績概要
- 2.2021年通期見通し
- 3.事業戦略
- 4.ESG(SDGs)への取り組み

1.2020年通期連結業績概要

2.2021年通期見通し

3.事業戦略

4.ESG(SDGs)への取り組み

連結決算の概要



■ アジア事業が利益面では堅調、北米・欧州事業は苦戦

(単位：百万円)

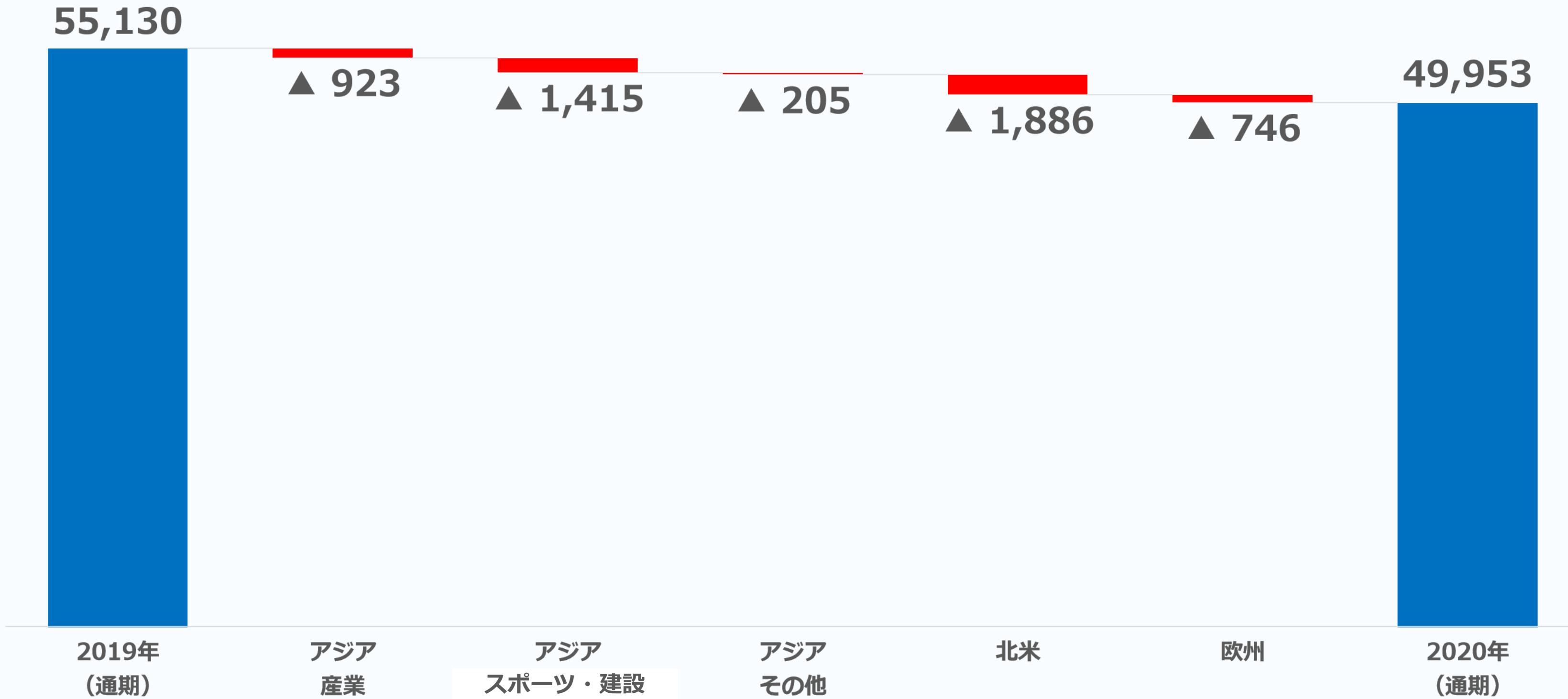
項目	2020年12月期		2019年12月期		連結業績予想	
		売上高比率 (%)	前期比 (%)	売上高比率 (%)	増減額	増減比 (%)
売上高	49,953		△ 9.4	55,130	△ 47	△ 0.1
営業利益	2,898	5.8	△ 6.9	3,114	298	10.3
経常利益	3,319	6.6	4.5	3,175	319	9.6
当期純利益	1,444	2.9	△ 28.8	2,030	144	10.0
設備投資額	2,130	22.7		1,736		
減価償却費	1,455	△ 4.9		1,530		
ROE	6.4%	△ 3.0		9.4%		
ROA	7.2%	0.3		6.9%		
平均為替 レート	USドル	106.43		109.24		
	カナダドル	79.27		82.42		
	ユーロ	121.97		122.15		
	中国元	15.42		15.82		

売上高増減要因



■ 前期比9.4%減少

(単位：百万円)

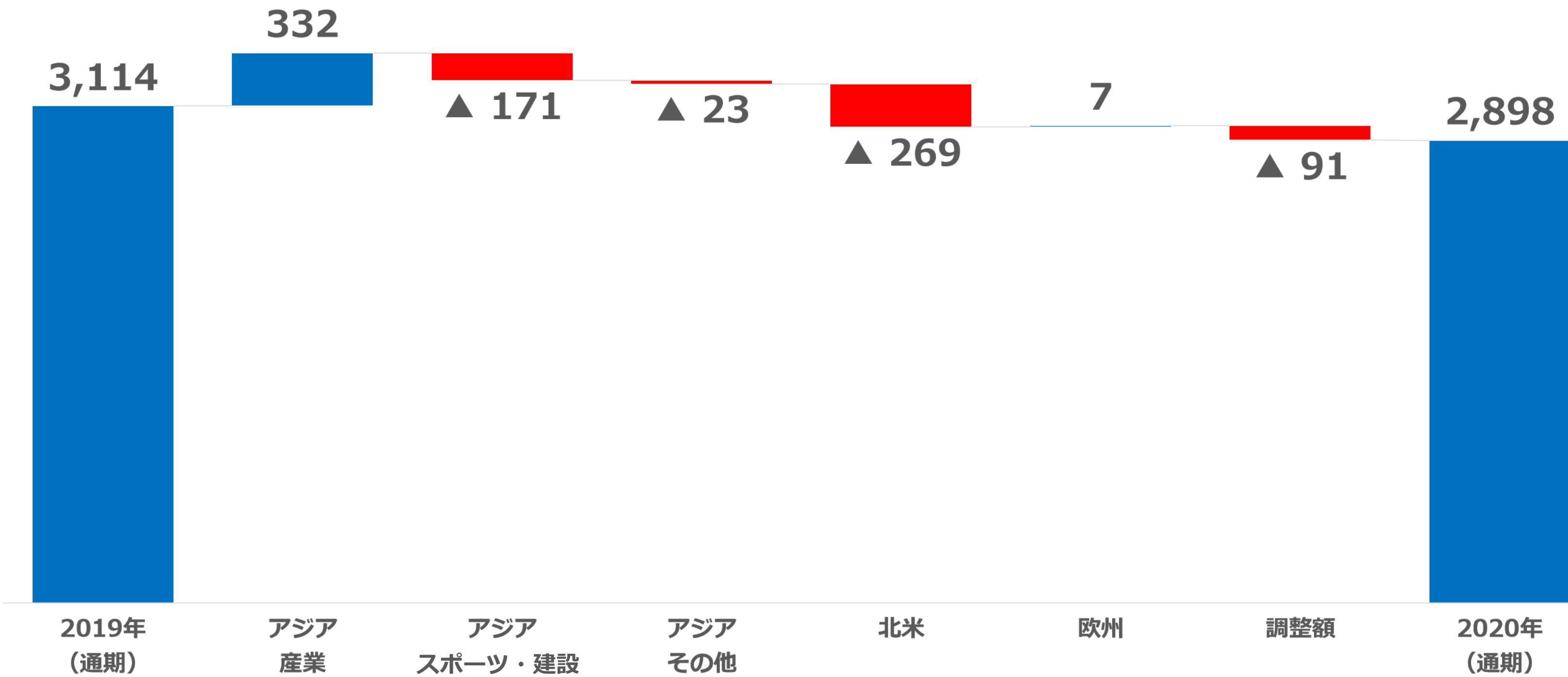


営業利益増減要因



■ 前期比6.9%減少

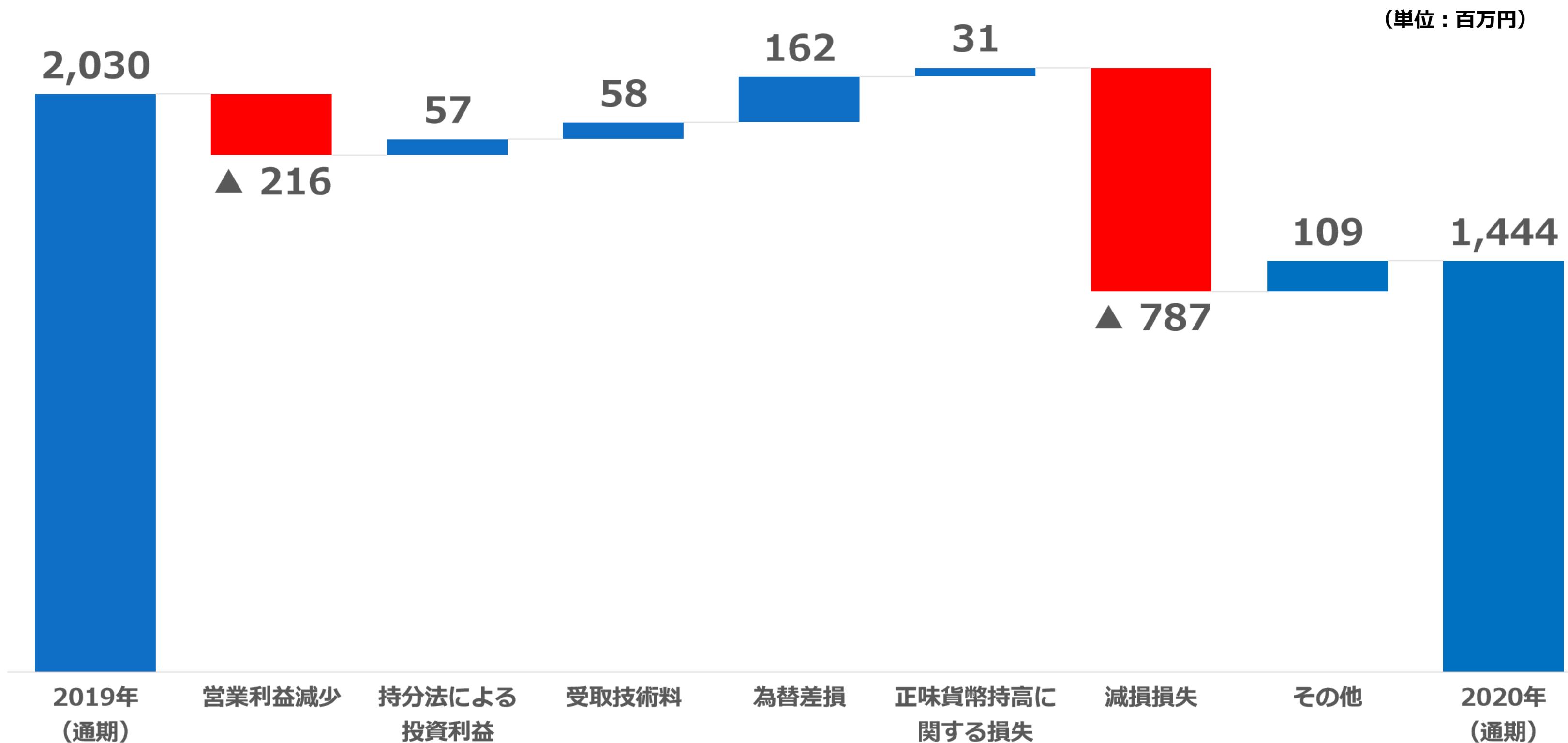
(単位：百万円)



当期利益増減要因



■ 前期比28.8%減少



セグメント別売上高・営業利益



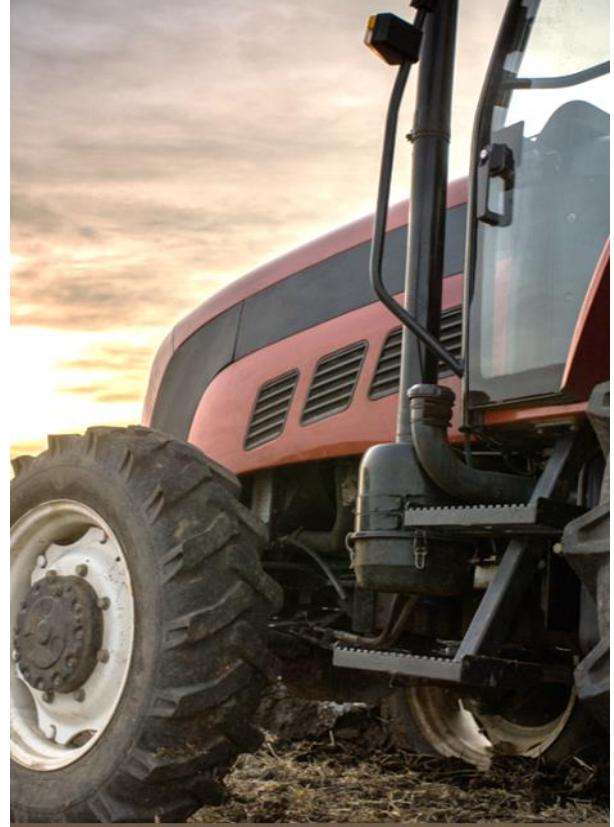
■ コロナ禍においてアジア事業の産業資材が営業利益をけん引

(単位：百万円)

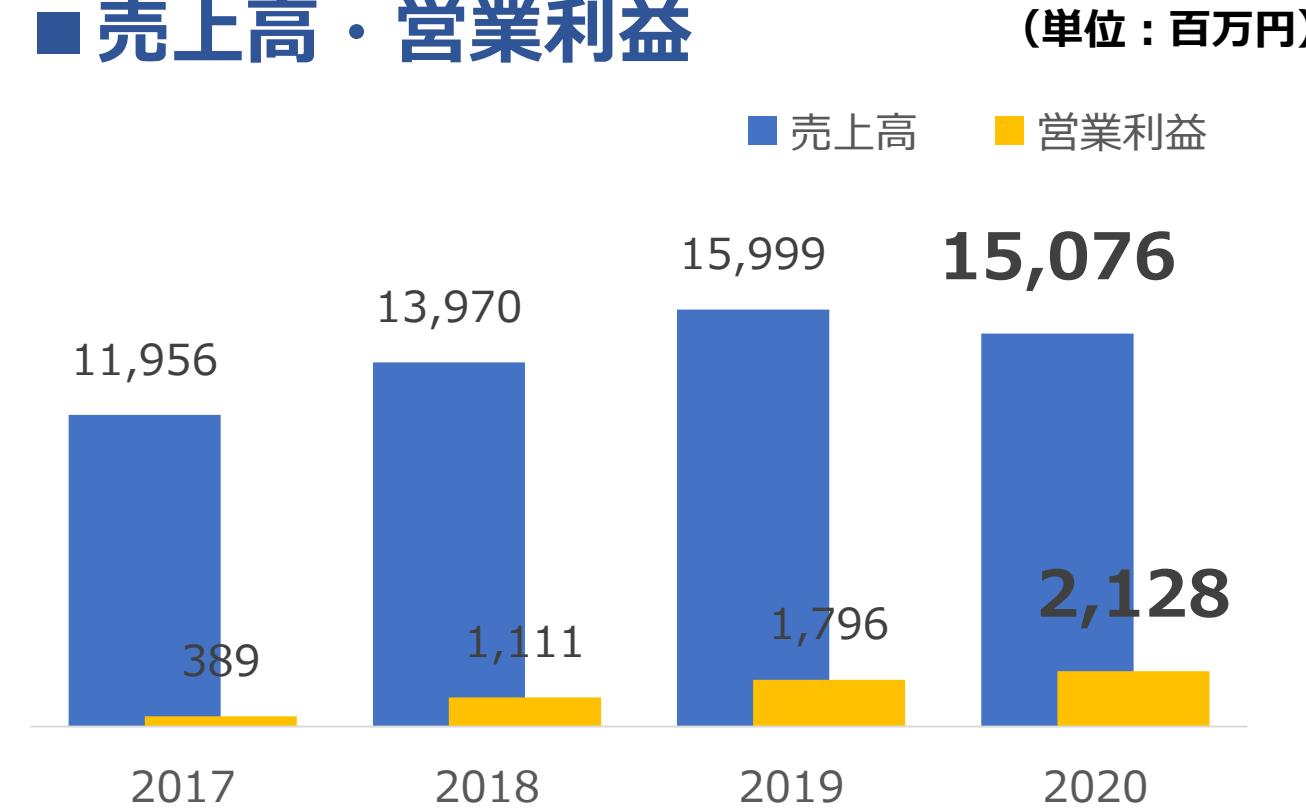
事業セグメント	2020年12月期 通期実績	2019年12月期 通期実績	前期比 (増減額)	前期比 (%)
アジア事業	売上高 25,710	28,254	△ 2,544	△ 9.0
	営業利益 2,866	2,729	137	5.0
産業資材	売上高 15,076	15,999	△ 923	△ 5.8
	営業利益 2,128	1,796	332	18.5
スポーツ・ 建設資材	売上高 10,043	11,459	△ 1,416	△ 12.4
	営業利益 883	1,054	△ 171	△ 16.2
その他	売上高 590	795	△ 205	△ 25.8
	営業利益 △ 145	△ 121	△ 24	-
北米事業	売上高 21,410	23,297	△ 1,887	△ 8.1
	営業利益 1,140	1,409	△ 269	△ 19.1
欧州事業	売上高 2,832	3,579	△ 747	△ 20.9
	営業利益 △ 213	△ 220	7	-
連結	売上高 49,953	55,130	△ 5,177	△ 9.4
	営業利益 2,898	3,114	△ 216	△ 6.9

※全社費用は上記に表示しておりません

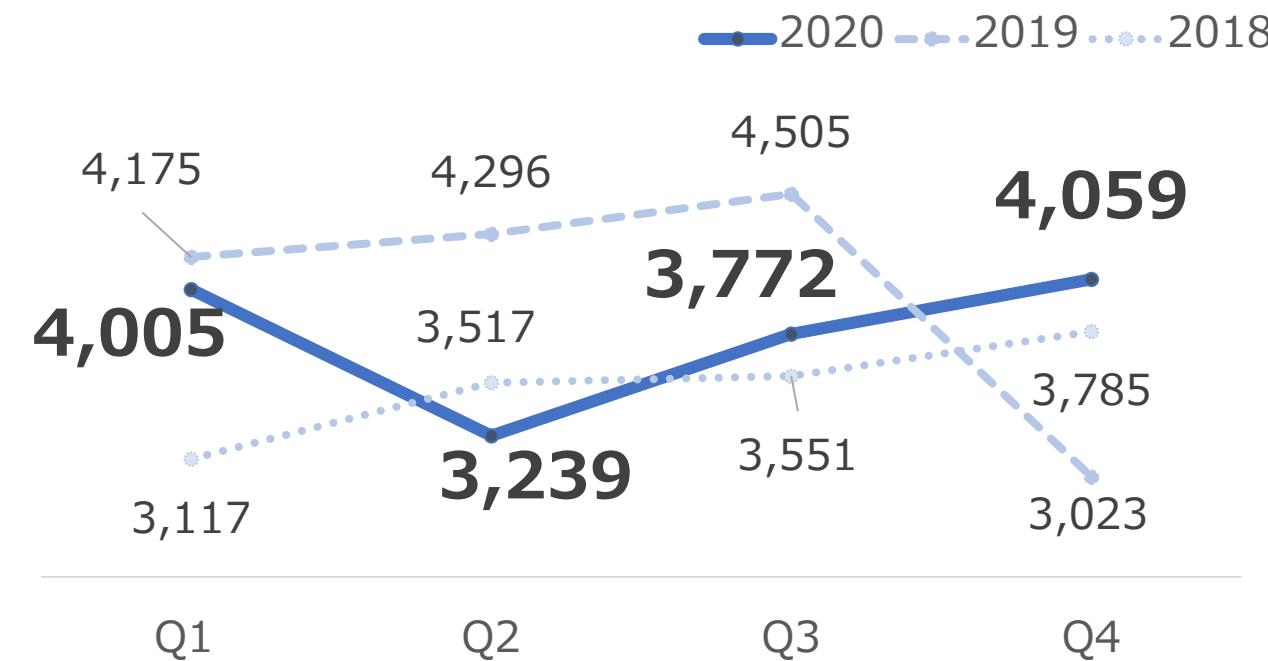
アジア事業 産業資材の概況



■売上高・営業利益



■四半期ベースの売上高推移

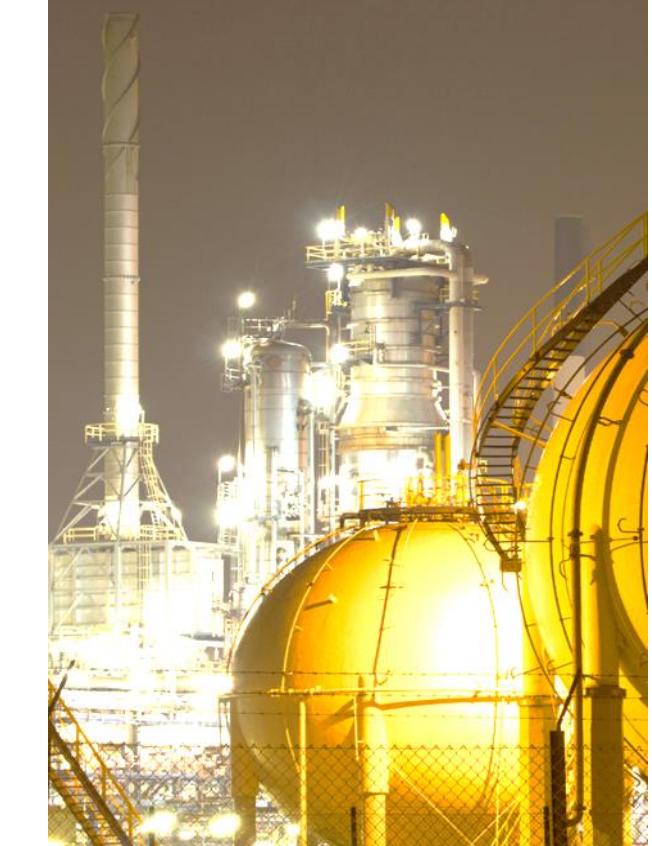


- 建機・農機をはじめ、尿素SCR用モジュール・タンクなど量産品供給が堅調
- オリジナル製品の利益率改善により営業利益率の改善に寄与（前年比18.5%増）
- (株)サンエーは欧州乗用車向けへの尿素SCRセンサー供給継続が增收増益に寄与

(株) サンエー（単体） 売上高・営業利益実績

20年度：売上高44.7億円/営業利益5.0億円

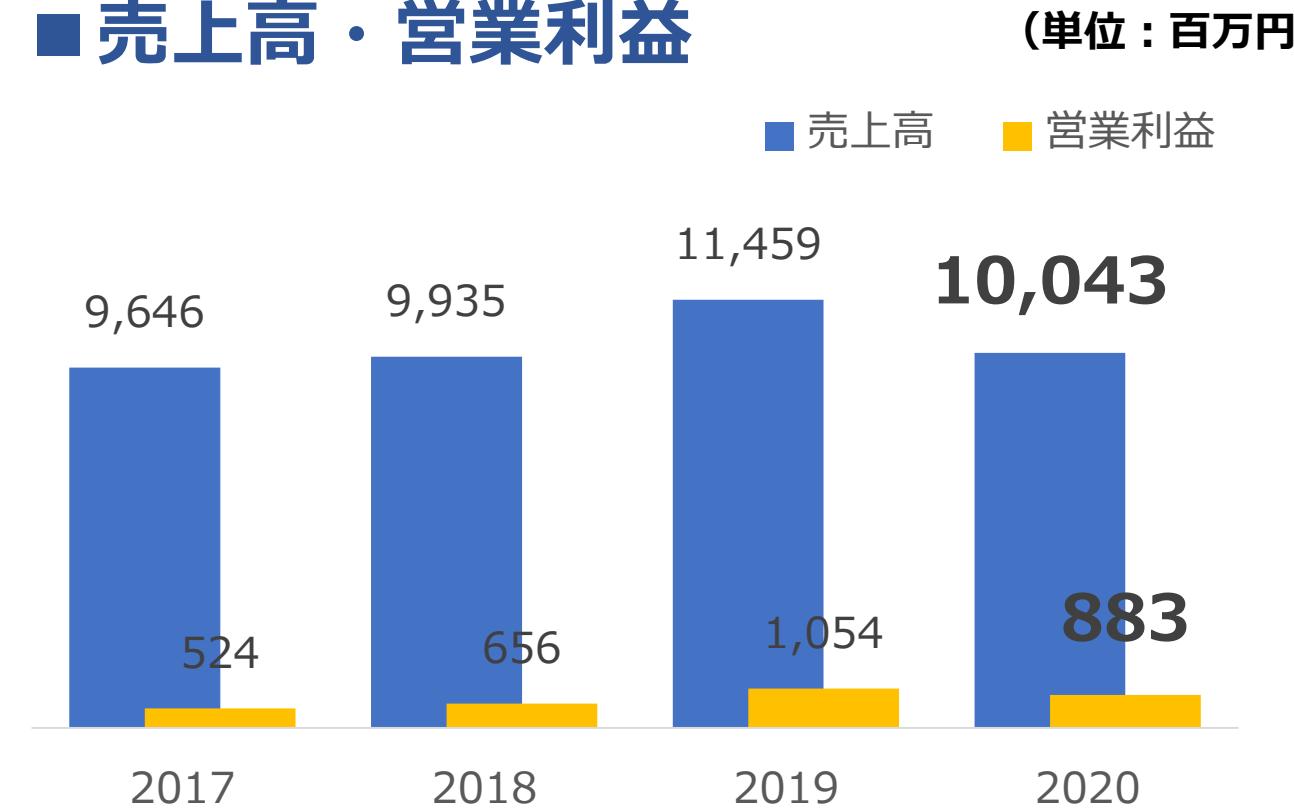
19年度：売上高40.1億円/営業利益3.1億円



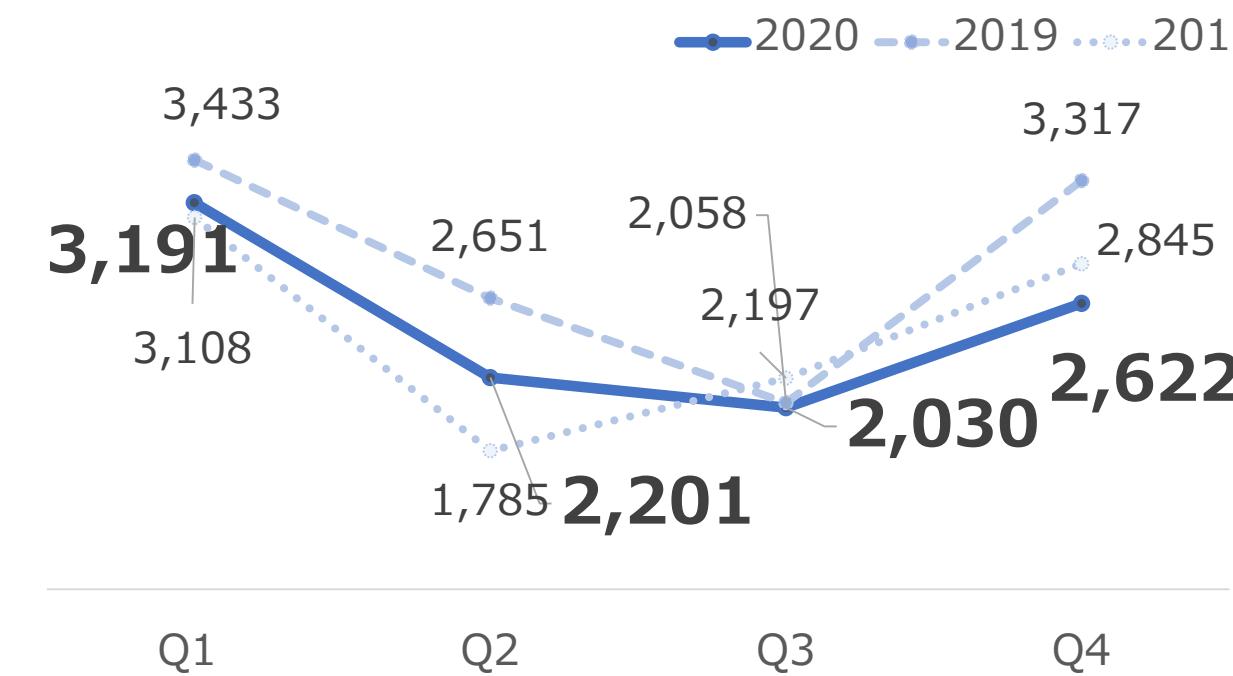
アジア事業 スポーツ・建設の概況



■ 売上高・営業利益



■ 四半期ベースの売上高推移

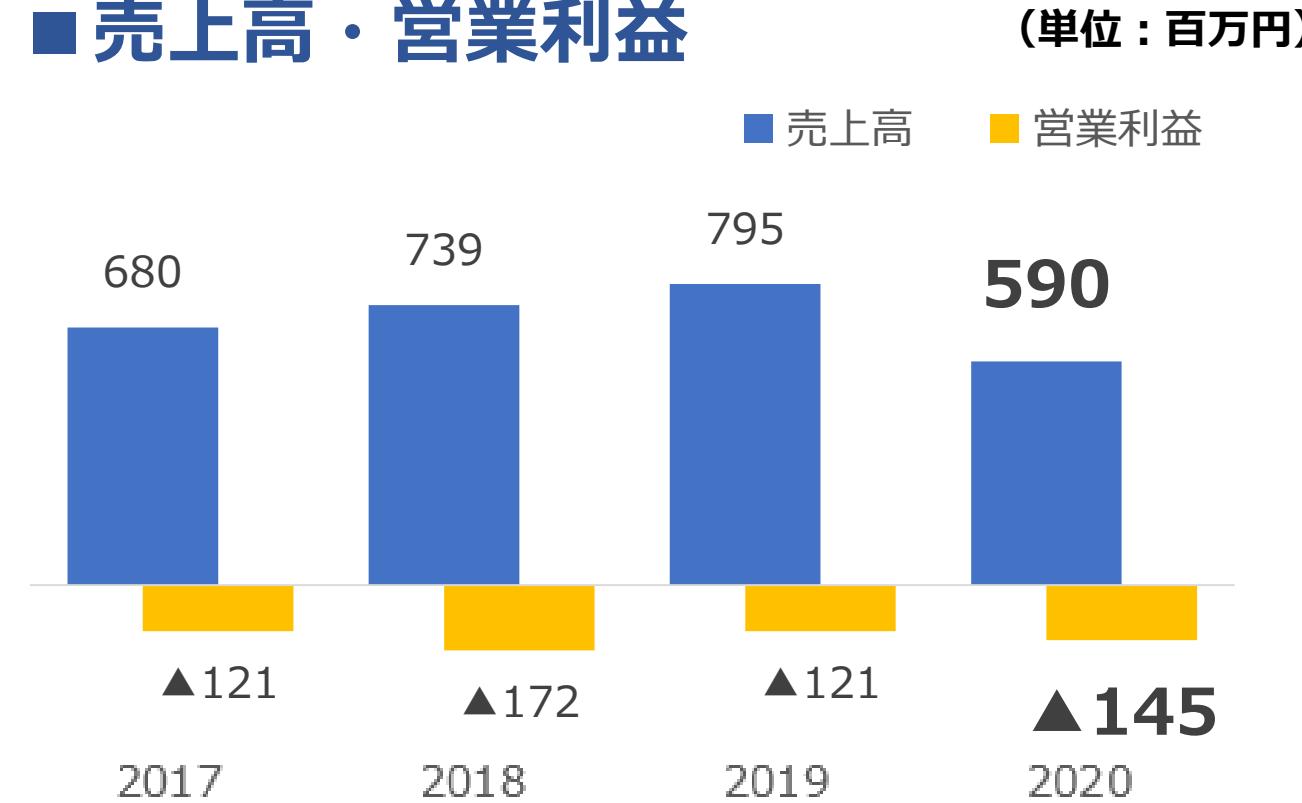


- 鉄道施設等向け「エンシン階段」
陸上競技用トラック「モンドトラック」
体育館用床材「タラフレックス」の販売が増加
- 大型商業施設等の設備投資が低迷した影響で
「スーパー・マテリアルズ」の販売が減少

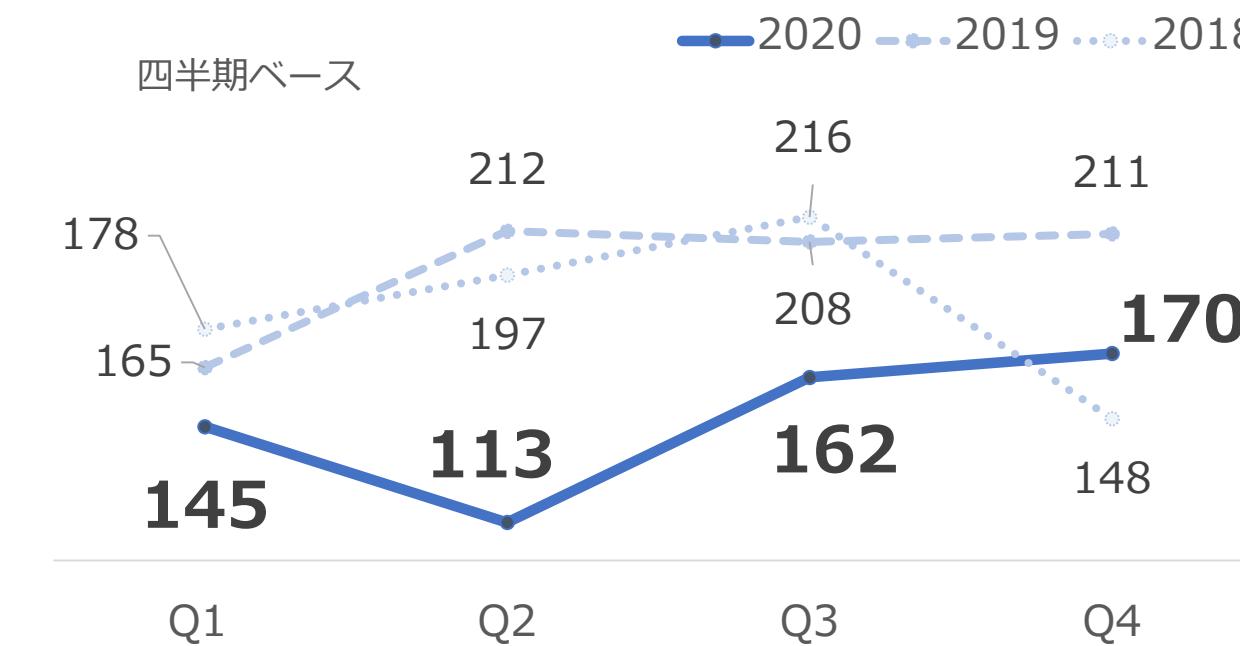
アジア事業 その他の概況



■売上高・営業利益



■四半期ベースの売上高推移

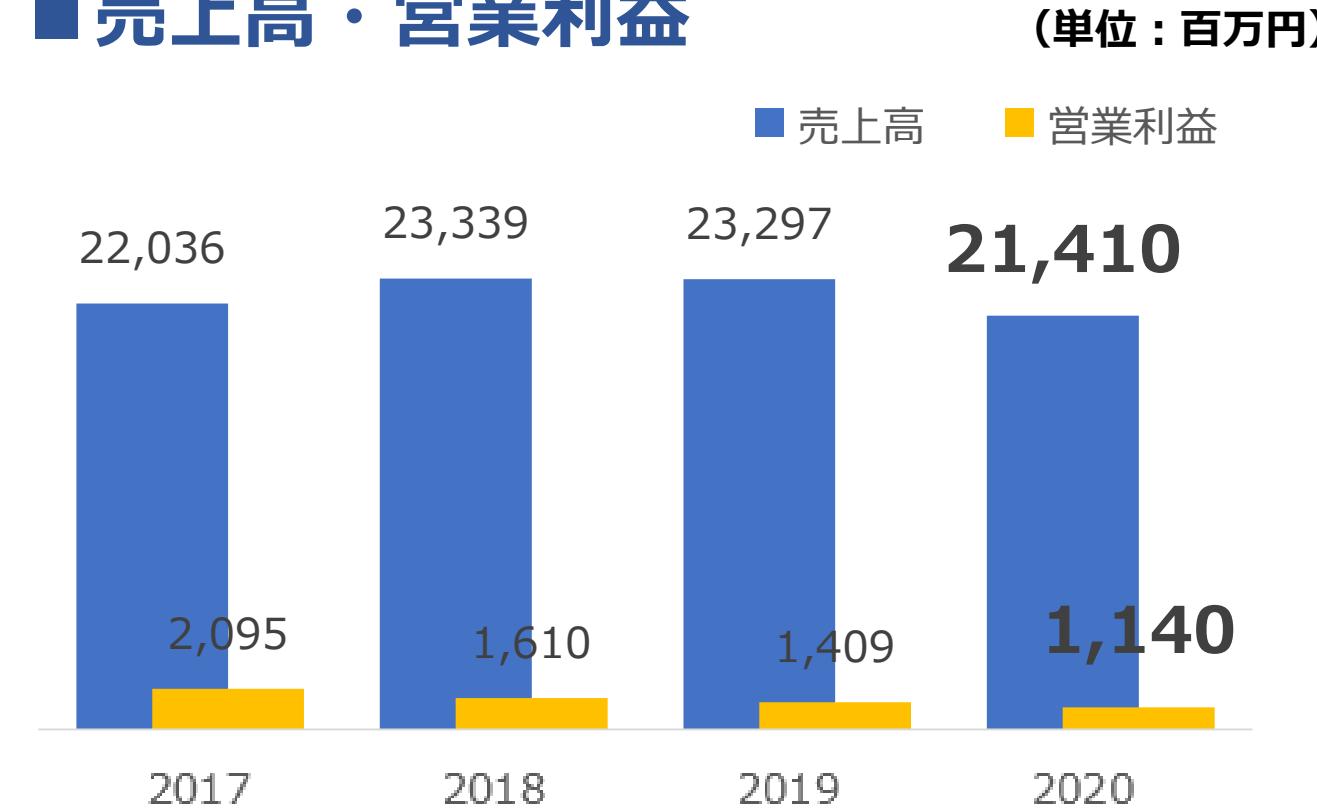


- 「MONTURA」は、広告宣伝による販売促進とEコマース運営体制の充実によるオンライン販売が増加するも店舗販売が軟調
- ダストコントロール事業は、得意先の在庫調整により苦戦するも新規大手顧客への販売を積極的に推進

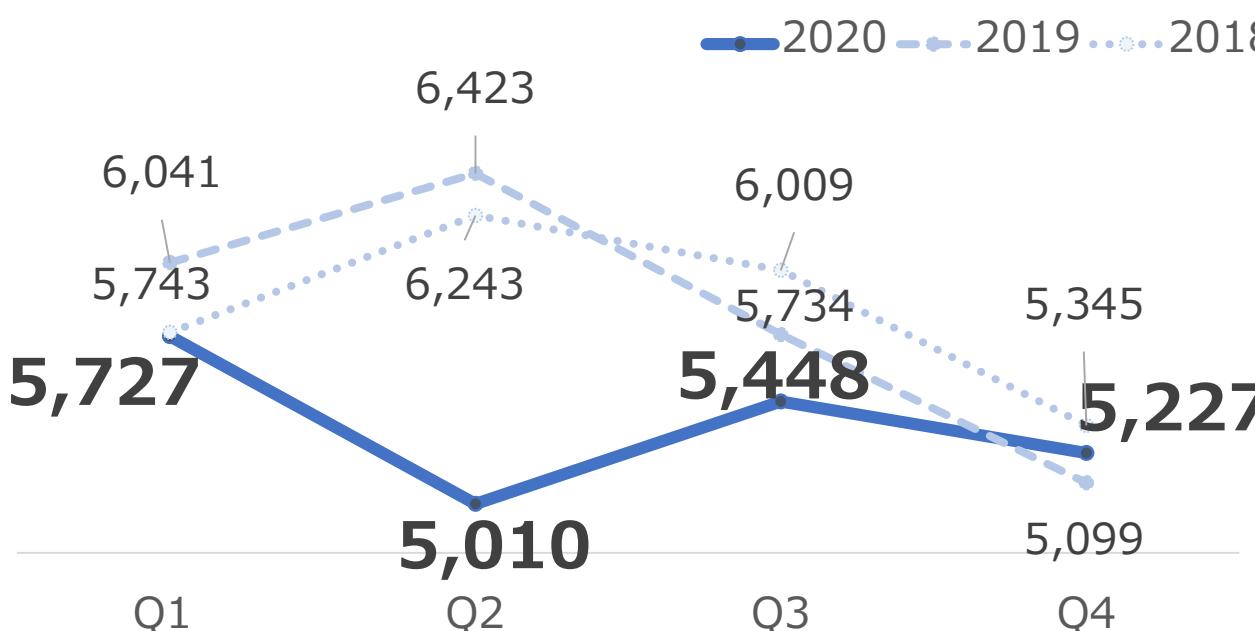
北米事業の概況



■ 売上高・営業利益



■ 四半期ベースの売上高推移

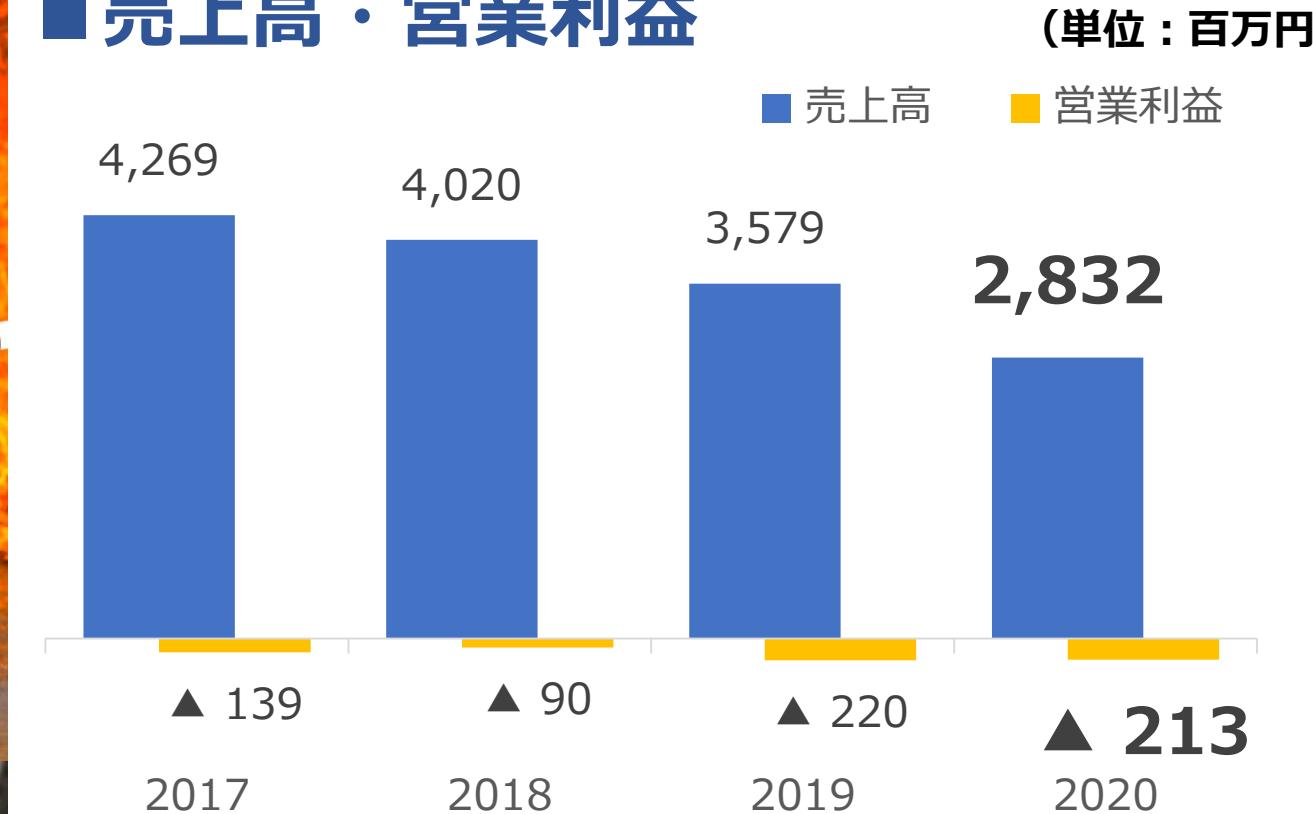


- コロナ禍においても各種産業用ホース・継手の生産、販売は必要不可欠な事業(Essential Business)として事業活動を継続
- 住宅外壁塗装用「ペイントスプレーホース」、屋外プール用「Spaホース」等が、DIY、巣ごもり需要などの新たなニーズの高まりに合わせて好調に推移
- 農業、製造業向け、下水インフラ関連は堅調に推移したものの、コロナにより飲料関連やオイル・ガス、建築・土木関連が軟調

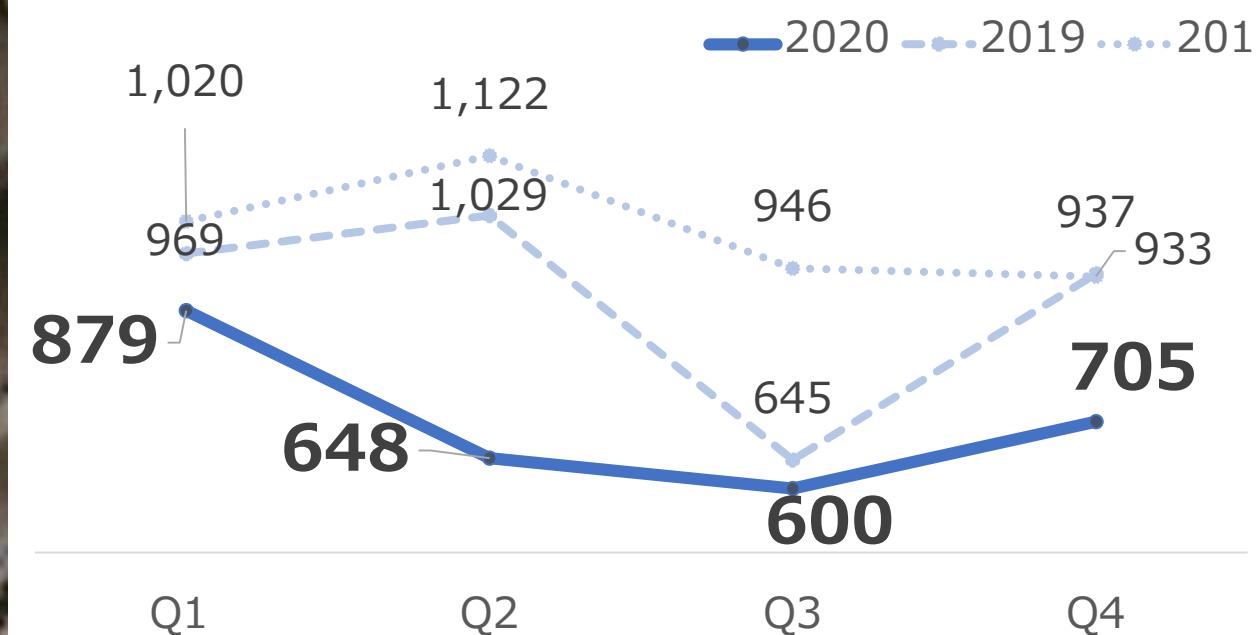
欧洲事業の概況



■ 売上高・営業利益



■ 四半期ベースの売上高推移



- EU各国のコロナ感染再拡大によるロックダウンの影響により消防機関向け、および灌漑を含む農業向けホース販売は軟調
- 南米アルゼンチン政府の要請により、4月に一時休業を強いられたものの、工場再開後は需要が回復し、売上高・利益面では前年水準を維持
- スペインのホース工場では減損損失 7億87百万円を計上

内訳：
有形固定資産 3億1千万円
無形固定資産 4億7千万円

■ 働き方改革推進の成果

- ・「働き方改革」を一層推し進め、テレワーク規程やリモート会議システム等を早期に導入し、生産性を落とすことなく顧客要求に対応

■ 当社の取り組み

- ・従業員の健康と安全を守ることを第一に、在宅勤務や不要不急の移動の自粛等、感染防止対策を徹底
- ・海外拠点においては、現地行政の指示に従い、適切な感染予防措置を行いつつ、「Essential business」として操業を継続
- ・非常事態宣言下、不要不急の経費の見直し、および適正在庫の確保に努め、顧客への製品・サービスの供給を滞りなく継続するためのBCP（事業継続計画）を整備

■ ホームページの全面リニューアル（4月開示予定）

- すべてのステークホルダーの皆様に、クリヤマグループの企業価値についての情報(財務情報、非財務情報)をわかりやすくタイムリーに発信します

■ 今後の取り組み

- 国内外における投資家様向けにリモートを含めた説明会を開催
- アナリスト様、機関投資家様との定期的な個別面談による対話を促進
- ESG(SDGs)への取り組みを強化し、非財務情報の開示を充実

- 1.2020年通期連結業績概要
- 2.2021年通期見通し
- 3.事業戦略
- 4.SDGsへの取り組み

連結業績予想



■ コロナ収束に合わせ増収を見込むも営業利益、経常利益は減益の見込み

(単位：百万円)

項目	2021年12月期 (予想)	2020年12月期 (実績)	前年比増減		2021年12月期 上期予想	前年比増減	
			(金額)	(%)		(金額)	(%)
売上高	52,000	49,953	2,047	4.1	26,000	842	3.3
営業利益	2,800	2,898	△ 98	△ 3.4	1,600	191	13.6
営業利益率(%)	5.4%	5.8%			6.2%		
経常利益	3,000	3,319	△ 319	△ 9.6	1,800	120	7.1
経常利益率(%)	5.8%	6.6%			6.9%		
当期利益	1,700	1,444	256	17.7	1,000	△ 178	△ 15.1
当期純利益率(%)	3.3%	2.9%			3.8%		

セグメント別 業績予想



■ アジア事業は尿素SCR転換期のため減収減益、北米・欧州事業は回復

事業セグメント	項目	2021年12月期 通期予想	2020年12月期 通期実績	前年比 (%)
アジア事業	売上高	25,600	25,710	△ 0.4%
	営業利益	2,512	2,866	△ 12.4%
産業資材事業	売上高	14,500	15,076	△ 3.8%
	営業利益	1,740	2,128	△ 18.2%
スポーツ・建設資材	売上高	10,400	10,043	3.6%
	営業利益	770	883	△ 12.8%
その他事業	売上高	700	590	18.6%
	営業利益	2	△ 145	-
北米事業	売上高	23,300	21,410	8.8%
	営業利益	1,200	1,140	5.3%
欧州事業	売上高	3,100	2,832	9.5%
	営業利益	150	△ 213	-
連結	売上高	52,000	49,953	4.1%
	営業利益	2,800	2,898	△ 3.4%

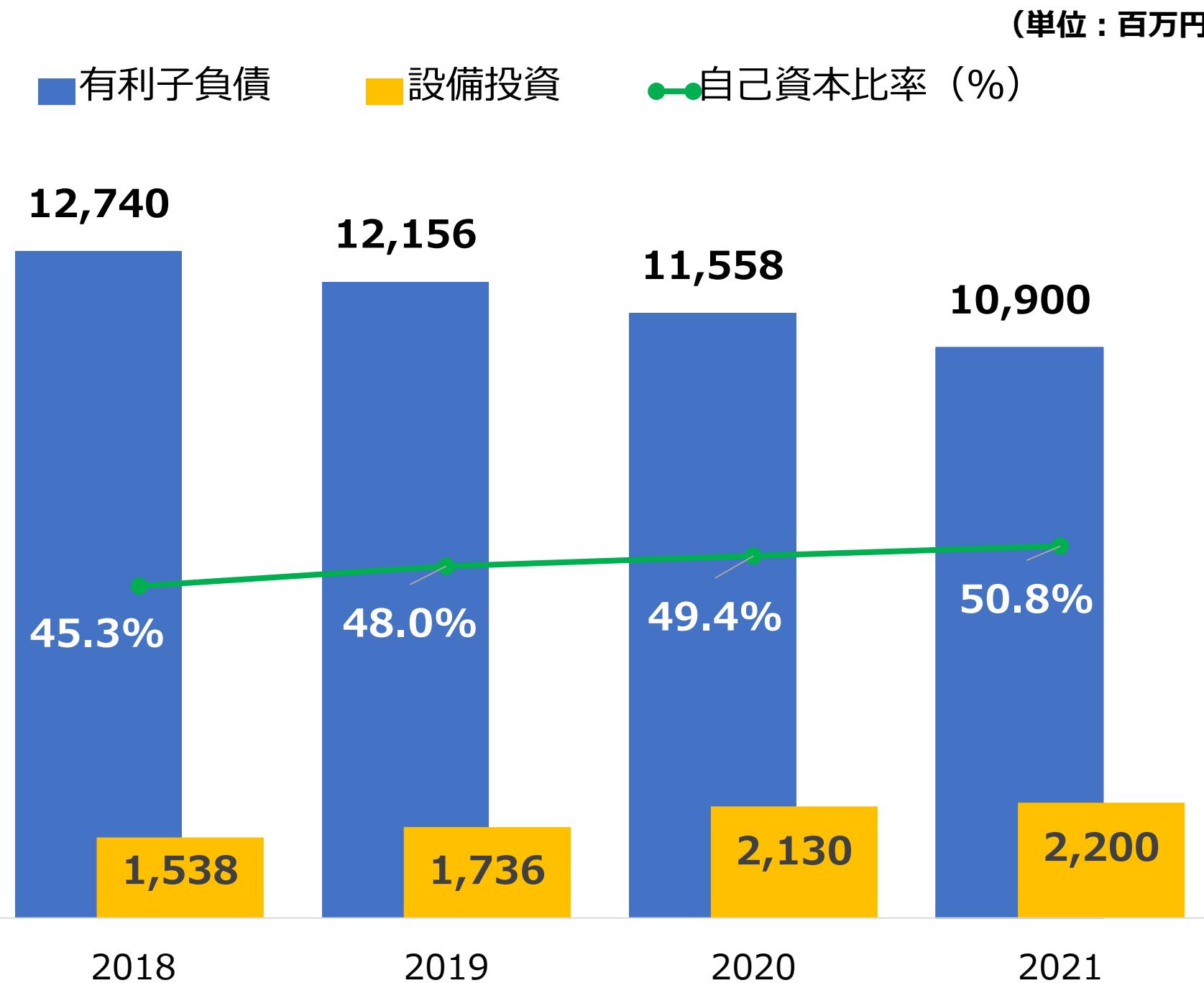
※全社費用は上記に表示しておりません

- (株)サンエーは、乗用車向け尿素SCRセンサーの一部供給終了により売上高35億円/営業利益1.8億円の見通し(20年実績:売上高44億/営業利益5.0億)
- 北米、欧州事業は、ワクチンの普及とともに市場の活性化が促進され回復基調を想定

設備投資及び負債



■ 有利子負債及び自己資本比率の推移



■ 有利子負債は、グループ内の資金活用により全体負債を圧縮

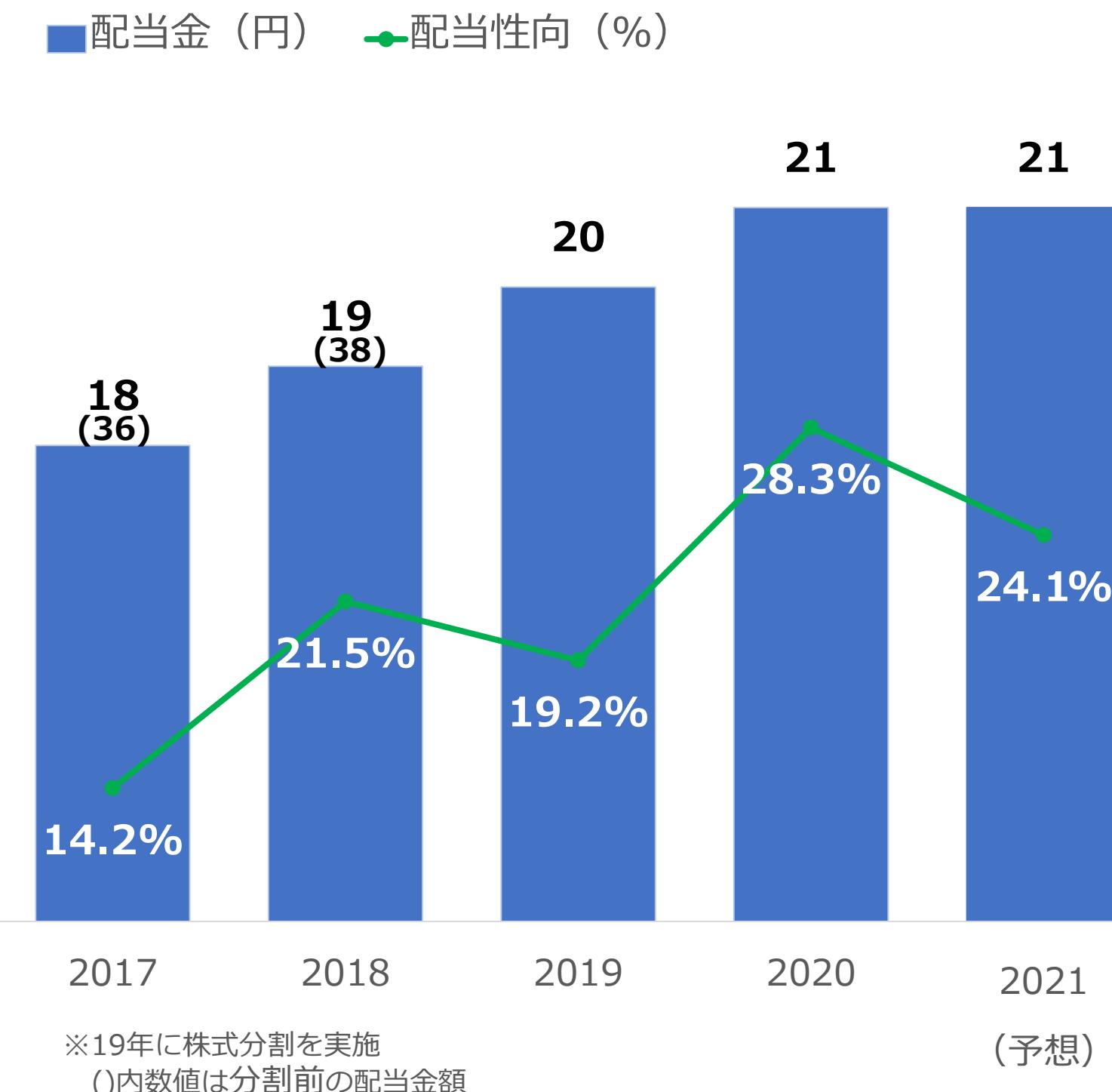
■ 主な設備投資(21年以降)

- ・ アメリカ : 約9.0億円 (PHP 生産ライン増設)
- ・ アルゼンチン : 約1.0億円 (INQ 工場拡張)
- ・ (株)サンエー : 約1.5億円 (SAC G5センサ量産化)
- ・ クリヤマ(株) : 約5.0億円 (量産金型 等)

株主還元の概況



■ 配当金と配当性向の推移



- 20年期末配当は、継続的・安定的配当を基本方針とし前期より1円増配により21円
- 21年期末配当は前期と同額の21円を想定
- 上場来(2004～2020) 減配なし
- 株主優待制度 (当社オリジナルQuoカード)
 - ✓ 200株以上 : 1,000円分
 - ✓ 2,000株以上 : 3,000円分

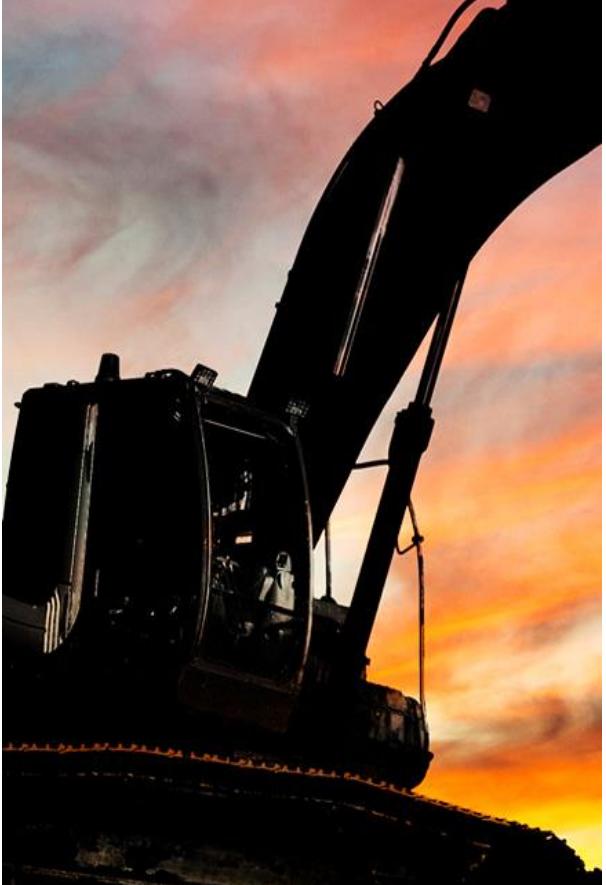
- 1.2020年通期連結業績概要
- 2.2021年通期見通し
- 3.事業戦略
- 4.ESG(SDGs)への取り組み

クリヤマグループ戦略

グローバル事業戦略



- 日本の建機・農機のグローバルTier1サプライヤーとしての地位を確立する
- 産業用総合ホースメーカーとして品質と信頼のNo.1ブランドを目指す
- 現地生産・現地販売を推進し、各国の経済発展に貢献する



■ 日本の建機・農機のグローバルTier1サプライヤーとしての地位を確立する

■ 20年度における進捗

- ・ 日系大手建機・農機各社の新機種向け尿素SCRモジュール・タンクを受注
- ・ 欧州中核事業会社(KEC)を軸とした欧州市場におけるサプライチェーンを構築
- ・ BCP対策チームを設立、不測の事態におけるガバナンスを強化

■ 21年度以降の取り組み

- ・ 次世代型の尿素SCRセンサーなどの商品開発を推進
- ・ 排ガス規制強化に伴う尿素SCRモジュール・タンクの更なる拡販
- ・ オリジナル製品比率の向上による収益性改善



■ 産業用総合ホースメーカーとして品質と信頼のNo.1 ブランドを目指す

■ 20年度における進捗

- ・ 北米ロジスティクスの在庫適正化により前期比15%低減
- ・ NSF61認証材料を使用した飲料水輸送ホース“Tiger Aqua”を開発
- ・ 北米市場にてWeb動画(Kuriyama Academy)による販促活動を推進



■ 21年度以降の取り組み

- ・ 北米ロジスティクスの最適化に向けた取り組み継続
- ・ 北米・欧州事業における消防機関への販路拡大
- ・ 社会環境の変化から生まれる新たなニーズにむけた商品開発の推進



■ 現地生産・現地販売を推進し、各国の経済発展に貢献する

■ 20年度における進捗

- ・ アメリカ/インディアナ工場にてメタルホースの製造設備を増設
- ・ スペイン工場にて大口径レイフラットホースを開発、専用ラインを増設
- ・ アルゼンチン工場／倉庫拡張に伴う長尺ホース製造及び、在庫販売品目の拡充

■ 21年度以降の取り組み

- ・ 北米ホース工場への設備投資による生産能力の強化
- ・ 現地ニーズに沿った商品開発と人材確保
- ・ 消防、飲料、MIL-SPEC などの各種規格の認定取得による販路拡大

クリヤマグループ戦略

国内事業戦略

- スポーツアパレル“モンチュラ”的販売拡大を通じて健康社会の発展に貢献する
- スポーツ施設や商業施設などの総合床材メーカーとしてのNo.1ブランドを目指す



■ スポーツアパレル“モンチュラ”的販売拡大を通じて健康社会の発展に貢献する

■ 20年度における進捗

- ・関西の旗艦店「MONTURA OSAKA」をリニューアルオープン
- ・卸・量販店向けヘシューズの販路を拡大
- ・ECモール参入による販売機会拡大

■ 21年度以降の取り組み

- ・「MONTURA TOKYO」「MONTURA OSAKA」の旗艦店による販売強化
- ・Eコマースに適した物流体制の構築
- ・日本国内市场向けカスタマイズ製品の展開



■ スポーツ施設や商業施設などの総合床材メーカーとしてのNo.1ブランドを目指す

■ 20年度における進捗

- ・ 体育館床面老朽化による「ささくれ問題」解消のため、“タラフレックス”による改修を推進
- ・ 鉄道施設安全対策として、“一体型スキマモール”を開発、JR山手線をはじめ一部大手民鉄に採用
- ・ 施工関連会社との協業推進による施工品質の向上、低環境負荷材料の積極導入

■ 21年度以降の取り組み

- ・ 新分野をターゲットとした商品開発および販売展開による建設系材料販売の再構築
- ・ 防災拠点として活用される文教施設体育館等へ“タラフレックス”提案推進

- 1.2020年通期連結業績概要
- 2.2021年通期見通し
- 3.事業戦略
- 4.ESG(SDGs)への取り組み

SDGsへの取り組み



事業を通じて積極的に取り組む課題

持続可能な社会づくりに
貢献する企業グループ

気候変動と大気汚染
による影響軽減に向
け、事業を通じて地球
温暖化や脱炭素の課
題に取り組みます



新素材の活用や生産技術向上に
より、環境負荷低減商品の開発を
強化します



全社的に取り組みを
強化する課題
持続可能な事業の基盤

人権を尊重し、多様性のある人材を
育成することで“誰もが輝く社会づくり”
に貢献します



廃棄物を資源として再利用、または適正に
処分することで循環型社会に貢献します



人々のニーズに配慮し、公
共交通機関への安全なア
クセスを実現するサステ
ナブルな商品を開発、提
供しています



スポーツ振興を通して人々を支え、
健康社会への発展に貢献します



持続可能な社会の実現に向けて

クリヤマグループは、「顧客の
ニーズをつかみ、持続可能な社会
づくりに貢献する会社」を経営ビ
ジョンに掲げ、誰もが輝き、共に
成長する豊かな未来を目指し、
地球環境や社会に貢献するビジネ
ス展開を通じて企業価値を高めて
まいります。

SDGsへの取り組み

社内報 Vol.293



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 畜産をなくそう	2 気候をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 貧の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 発展がいる経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 八や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 路の豊かさも守ろう	16 和平と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう	

2020年1月～
SDGs達成のための
行動の10年
(DECADE OF ACTION)
が始まります。

社長室
室長 増田 晶代

今が行動のとき。
自分自身の未来を切り拓こう

ヤマホールディングスのホームページ「SDGsへの取り組み」に事業別で掲載しておりますので、ご覧ください。また会社の経営ビジョン、基本方針や事業戦略について、今年度からSDGsのコンセプトを取り入れたものに変更しています。ぜひお手元の社員手帖を見てみてください。

ところで、なぜSDGsはこんなにも注目・重視されているのでしょうか？それは、「この地球上に起きている諸問題に有効な手を打つリミットが確実に迫りつつあるからです。地球の平均気温は上がり続け、自然の豊かさは失われ、そして国家間や個人間の格差はますます広がる。こういった現実に考えると遠く感じますが、SDGsは、「あなたの未来のために、あなたの未来、私たちがこの2021年と同じ環境で暮らせる保証はありません。」地球の未来のため、「あなたの子どものため」の目標なのです。「世界中誰ひとり取り残さない」という基本方針には、もちろん

まずは未来の環境について、具体的に想像してみましょう。気候はどう変わる？自然環境は？食糧事情は？人や国の格差は？そして自分や自分の子どもの暮らしの世界が今より悪い状況になつていると感じたら…。さあ、「何か行動しなければ」と使命感が湧いてきたのではないかでしょうか。

SDGsの17の目標の下には169もの具体的なターゲットが設定されていて、誰もが今すぐでもいすれかに手を付けられるようになっています。皆さんと一緒にSDG'sに参加できるよう、クリヤマでも前述のように電力や水の節約、グリーン調達、ペーパーレス化、そして事業を通じた目標達成などに取り組んでいます。さらに、当社だけでは解決が難しい問題も産官学連携で解決できるよう、パートナーシップ強化にも注力していく方針です。そこには皆さん一人ひとりの日常の細かな行動の積み重ねを加え、17の目標全てに取り組んでいきたいと考えています。

近年、あちらこちらで目に見る「SDGs」。今のこの暮らしや環境を末永く維持していくために何ができるのか。あなたも考えてみませんか？

はじめよう、わたしたちの持続可能な開発目標

SDGs

Sustainable Development Goals

SDGsとは、環境や人権に関する問題に対応して、全世界で取り組むべき17の目標(ゴール)を指します。達成期限は2030年。2015年の「国連持続可能な開発サミット」において150カ国以上の加盟国の全会一致で採択され以来、各国で「世界中誰ひとり取り残さない」達成をめざしました。これまで「エコアクション」という形で行っていた活動をさらに昇華させて、各取り組みを具体化した上で目標設定を図るほか、事業活動を通じた達成への目標設定も併せて行っています。例えば、「尿素SCRシステム」の拡販で大気汚染物質を低減させたり、「タラフレックス」を敷設した体育館を増やして、災害時、避難所として使われた際に人々の健康を守る、といったことが挙げられますね。詳しくはクリヤマのHPをご覧ください。

そんな潮流のなか、当社でも社会的役割を果たすべくグループ全体でSDGsに取り組もうと、着手が始めました。これまで「エコアクション」という形で行っていた活動をさらに昇華させて、各取り組みを具体化した上で目標設定を図るほか、事業活動を通じた達成への目標設定も併せて行っています。例えば、「尿素SCRシステム」の拡販で大気汚染物質を低減させたり、「タラフレックス」を敷設した体育館を増やして、災害時、避難所として使われた際に人々の健康を守る、といったことが挙げられますね。詳しくはクリヤマのHPをご覧ください。

SDGsとは、環境や人権に関する問題に対応して、全世界で取り組むべき17の目標(ゴール)を指します。達成期限は2030年。2015年の「国連持続可能な開発サミット」において150カ国以上の加盟国の全会一致で採択され以来、各国で「世界中誰ひとり取り残さない」達成をめざしました。これまで「エコアクション」という形で行っていた活動をさらに昇華させて、各取り組みを具体化した上で目標設定を図るほか、事業活動を通じた達成への目標設定も併せて行っています。例えば、「尿素SCRシステム」の拡販で大気汚染物質を低減させたり、「タラフレックス」を敷設した体育館を増やして、災害時、避難所として使われた際に人々の健康を守る、といったことが挙げられますね。詳しくはクリヤマのHPをご覧ください。

クリヤマホールディングス株式会社

10 | KURIYAMA 2021 WINTER

KURIYAMA 2021 WINTER

31

SDGsへの取り組み



気候変動と大気汚染による影響軽減に向け、事業を通じて地球温暖化や脱炭素の課題に取り組みます

排気ガスを浄化し大気汚染対策に貢献する「尿素SCRシステム」



スポーツ振興を通して人々を支え、健康社会への発展に貢献します

競技施設から防災拠点まで多目的機能をもつ弾性スポーツシート「タラフレックス」

高機能で快適「MONTURA」ウェア、シューズ等の販売や、スポーツ教室の開催サポート等による健康社会への貢献



人々のニーズに配慮し、公共交通機関への安全なアクセスを実現するサステナブルな商品を開発、提供しています

視覚障がい者を守る点字タイル、公共交通機関での転倒事故やけがを防ぐノンスリップタイル

駅ホームでの転落事故防止のため、電鉄会社と共同開発した段差・隙間対策商品「スキマモール」



新素材の活用や生産技術向上により、環境負荷低減商品の開発を強化します

NSF(USA)に認定された人体に適した飲料用ホース等の製造販売



SDGsへの取り組み



廃棄物を資源として再利用、または適正に処分することで循環型社会に貢献します

セラミックタイルの廃材をリサイクル、都市型洪水やヒートアイランド現象にも貢献する「アクアスルー」

製造した消防用ノズルの検査において、工場での水の使用量を削減するため、テストで毎回使用される水は循環型回路を採用

ホースの製造工程で発生するスクラップの削減と再利用により産業廃棄物量を削減

セラミックタイル施工におけるCO₂排出量低減に配慮した低炭素モルタルの使用

ホース製造工程で、工場での排水は浄化システムを採用し、外部機関でシステム性能を監視

環境に配慮したマテリアルでの高機能なMONTURAウェアの販売

環境と身体の安全に配慮した人工芝「モンドターフ」・「リモンターフ」



工場排水の浄化システム



SDGsへの取り組み



人権を尊重し、多様性のある人材を育成することで“誰もが輝く社会づくり”に貢献します

KURIYAMAの働き方改革
(ダイバーシティ、女性活躍推進)

グローバル経営推進のために海外執行役員は現地で採用し、育成を図る取り組み



補足資料

補足資料1 要約貸借対照表



(単位：百万円)

資産の部	2020年 12月	2019年 12月	増減額
現金及び預金	7,310	5,947	1,363
売上債権	8,991	9,489	△ 498
たな卸資産	11,492	12,529	△ 1,037
その他	734	620	114
流動資産合計	28,527	28,585	△ 58
有形固定資産	10,192	10,171	21
無形固定資産	618	1,450	△ 832
投資その他の資産	6,582	6,300	282
固定資産合計	17,393	17,921	△ 528
資産合計	45,921	46,507	△ 586

補足資料2 要約貸借対照表



(単位：百万円)

負債・純資産の部		2020年12月	2019年12月	増減額
仕入債務	7,081	7,224	△ 143	
	5,368	7,119	△ 1,751	
	2,367	2,542	△ 175	
流動負債合計		14,816	16,885	△ 2,069
長期借入金	6,190	5,036	1,154	
	2,205	2,230	△ 25	
固定負債合計		8,395	7,266	1,129
負債合計		23,211	24,152	△ 941
株主資本合計		23,030	21,821	1,209
その他包括利益合計		△ 352	502	△ 854
非支配株主持分		32	31	1
純資産合計		22,709	22,355	354
負債・純資産合計		45,921	46,507	△ 586

補足資料3

要約損益計算書



KURIYAMA

(単位：百万円)

項目	2020年 通期	売上高比率 (%)	2019年 通期	売上高比率 (%)	増減額
売上高	49,953	-	55,130	-	△ 5,177
営業利益	2,898	5.8	3,114	5.6	△ 216
経常利益	3,319	6.6	3,175	5.8	144
当期純利益	1,444	2.9	2,030	3.7	△ 586

平均為替 レート	USドル	106.43	109.24
	カナダドル	79.27	82.42
	ユーロ	121.97	122.15
	中国元	15.42	15.82

補足資料4 キヤツシユフロー等



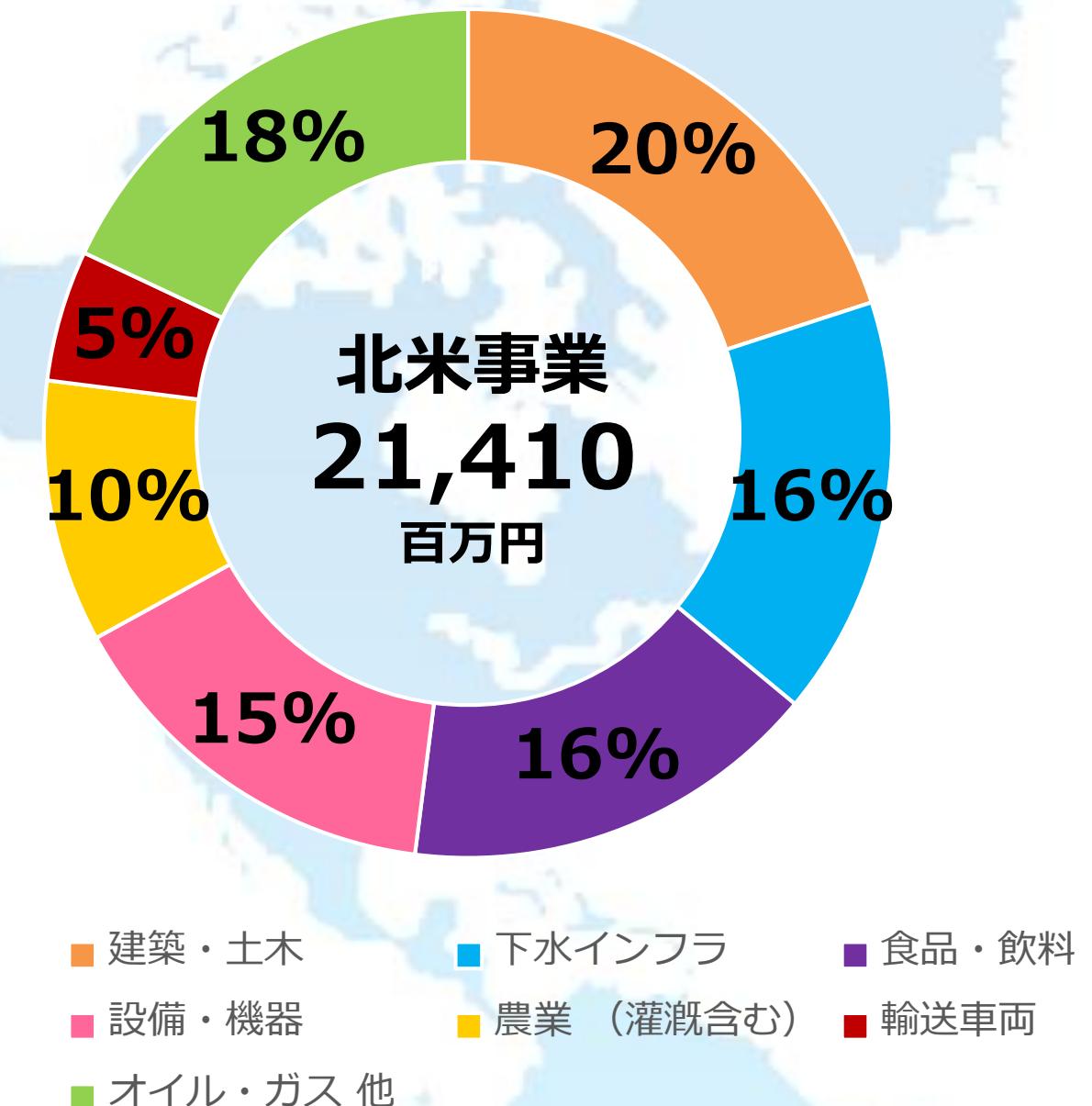
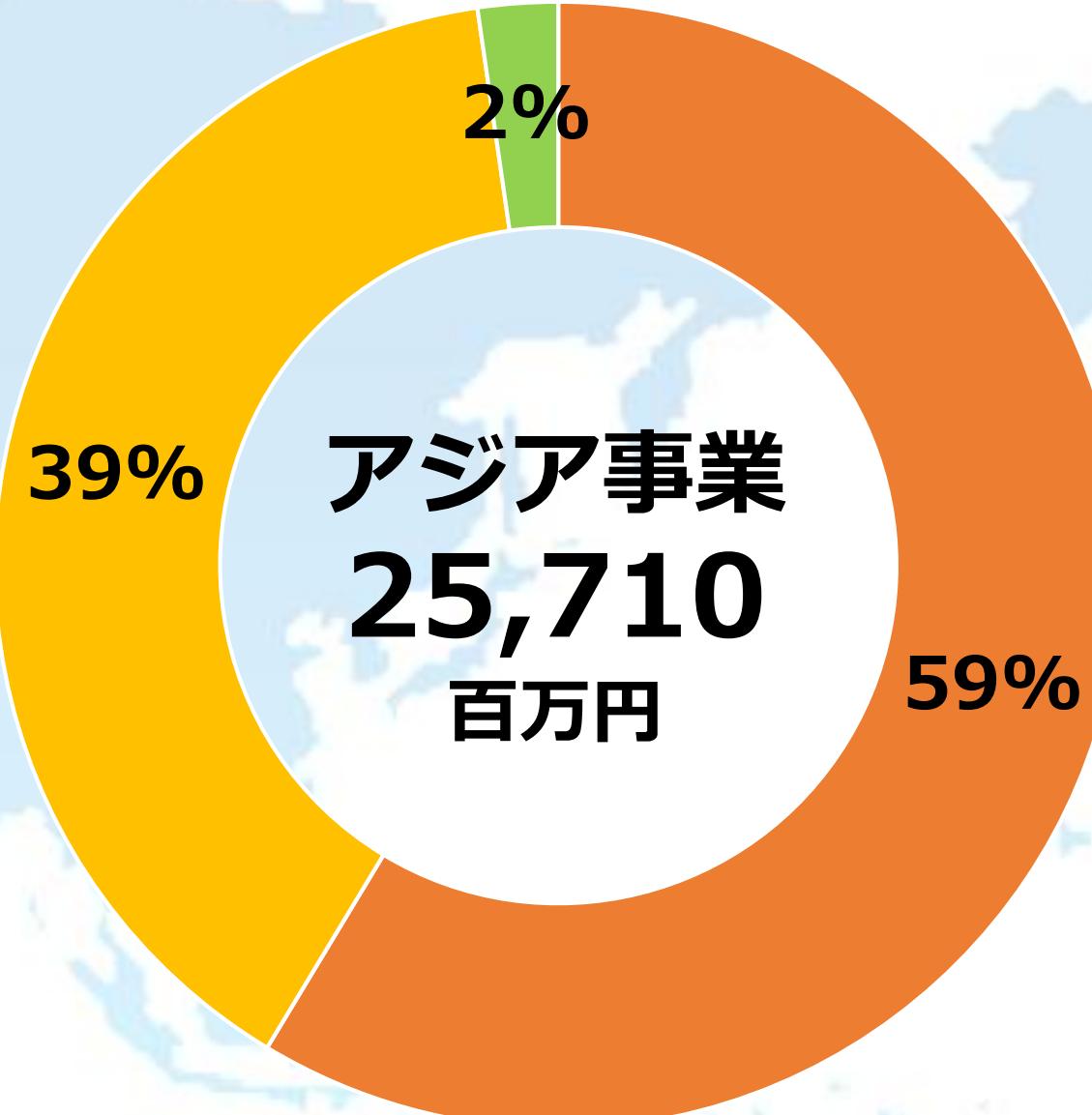
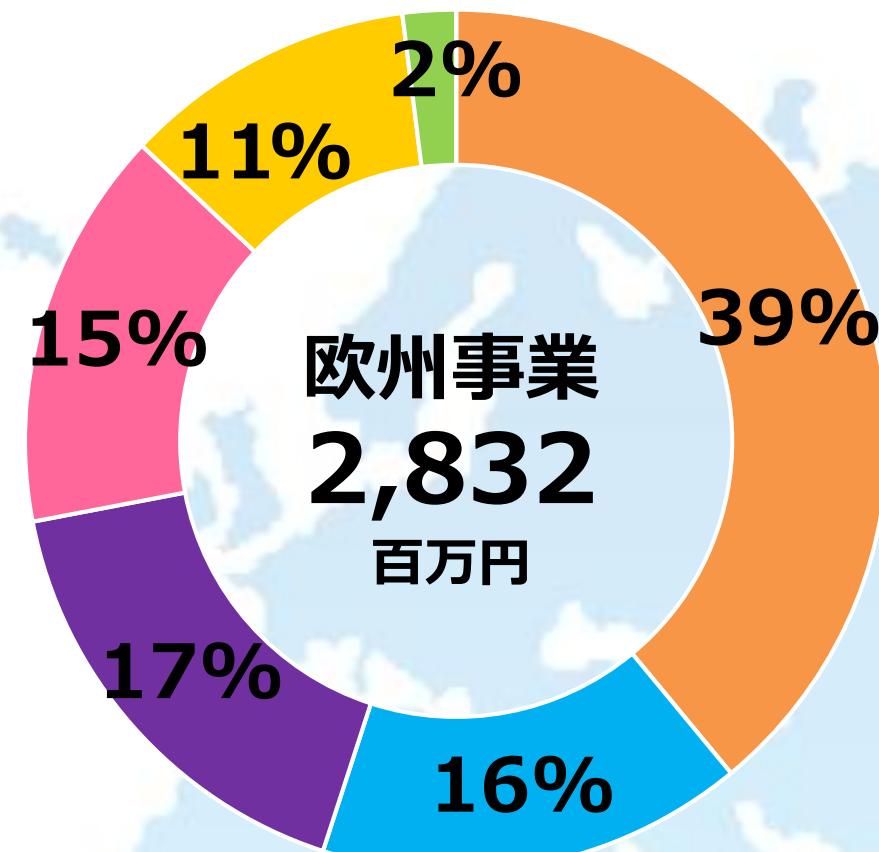
(単位：百万円)

	2020年12月	2019年12月	増減額
営業CF	4,507	2,972	1,535
投資CF	△ 2,040	△ 1,411	△ 629
FCF	2,467	1,560	907
財務CF	△ 1,041	△ 934	△ 107
現金及び現金同等物	7,309	5,946	1,363
設備投資額	2,130	1,736	394
減価償却費	1,351	1,393	△ 42
のれん償却	103	136	△ 33

補足資料5 販売構成等



■2020年12月期累計売上高実績



お問い合わせ先



クリヤマホールディングス株式会社 社長室

〒540-6325

大阪市中央区城見1丁目3番7号

松下IMPビル25階

E-Mail : IR@kuriyama.co.jp

TEL : 06-6910-7023

FAX : 06-6910-7035

<https://www.kuriyama-holdings.com>



クリヤマホールディングス株式会社
KURIYAMA HOLDINGS CORPORATION

本資料にかかる注意事項



この資料は投資家の参考に資するため、クリヤマホールディングス株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

今後新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる情報の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。